



Adaptec RAID Controller コマンドラインユーティ リティユーザーズガイ ド

CDP-00276-01JA-A Rev. A

発行番号: 2012年9月17日

改訂履歴

発行番号	発行日	変更内容
1.0	2012年9月17日	Adaptec Firmware/BIOS/Drivers/Utilities Version 8.0

目次

著作権、商標、免責事項.....	5
Adaptec by PMC 製品サポート.....	6
ソフトウェア使用許諾契約書.....	8
1 コマンドラインユーティリティのスタートアップ.....	11
コマンドライン ユーティリティのインストール.....	11
Windows へのインストール.....	11
Red Hat、Cent OS、SUSE、Fedora Linux へのインストール.....	12
Debian または Ubuntu Linuxへのインストール.....	12
Solaris へのインストール.....	13
FreeBSD へのインストール.....	13
VMware ESX 4.1 へのインストール.....	13
VMware ESXi 5.0 へのインストール.....	14
VMware ゲストOSへのインストール.....	15
コマンドライン ユーティリティの起動.....	15
2 コマンドライン ユーティリティの使用.....	16
ARCCONF コマンド.....	16
arccnf atpassword.....	17
arccnf copyback.....	18
arccnf create.....	18
arccnf datascrub.....	21
arccnf delete.....	22
arccnf driverupdate.....	23
arccnf failover.....	24
arccnf getconfig.....	24
arccnf getlogs.....	25
arccnf getperform.....	26
arccnf getsmartstats	27
arccnf getstatus.....	27
arccnf getversion.....	28
arccnf identify.....	28
arccnf imageupdate.....	29
arccnf key.....	30
arccnf modify.....	30
arccnf playconfig.....	31
arccnf rescan.....	33
arccnf resetstatisticscounters.....	33
arccnf romupdate.....	33
arccnf saveconfig.....	34
arccnf savesupportarchive.....	35
arccnf setalarm.....	36
arccnf setcache.....	36
arccnf setconfig.....	38
arccnf setcontrollermode.....	38
arccnf setmaxcache.....	39
arccnf setname.....	42
arccnf setncq.....	43
arccnf setperform.....	43
arccnf setpower.....	44
arccnf setpriority.....	46
arccnf setstate.....	46
arccnf setstatsdatacollection.....	48
arccnf setvmcredential.....	48
arccnf task.....	49
arccnf uninit.....	50

表一覧

表 1 : ARCCONF バッチ環境	16
表 2 : ARCCONF コマンド	16

著作権、商標、免責事項

著作権

Copyright © 2012 PMC-Sierra, Inc. All rights reserved.

この文書中の情報は、PMC-Sierra, Inc. の占有および秘密情報であり、お客様の内部使用に限定されます。本文書はたとえ一部であっても、PMC-Sierra Inc. の文書による許可を得た場合を除き、どのような場合でも複製、転送をしてはいけません。

商標

PMC、PMC-Sierra、Adaptec は、PMC-Sierra, Inc. の登録商標です。「Adaptec by PMC」は、PMC-Sierra, Inc. の商標です。本文中のその他の製品や会社名は、それぞれの所有者の商標の場合があります。PMC-Sierra の商標の一覧については、www.pmc-sierra.com/legal を参照してください。

免責条項

None of the information contained in this document constitutes an express or implied warranty by PMC-Sierra, Inc. as to the sufficiency, fitness or suitability for a particular purpose of any such information or the fitness, or suitability for a particular purpose, merchantability, performance, compatibility with other parts or systems, of any of the products of PMC-Sierra, Inc., or any portion thereof, referred to in this document. PMC-Sierra, Inc. expressly disclaims all representations and warranties of any kind regarding the contents or use of the information, including, but not limited to, express and implied warranties of accuracy, completeness, merchantability, fitness for a particular use, or non-infringement. In no event will PMC-Sierra, Inc. be liable for any direct, indirect, special, incidental or consequential damages, including, but not limited to, lost profits, lost business or lost data resulting from any use of or reliance upon the information, whether or not PMC-Sierra, Inc. has been advised of the possibility of such damage.

特許

本書で説明する技術には、特許により保護されているものが含まれる可能性があります。

Adaptec by PMC 製品サポート

アダプテック製品のインストールまたは使用に関する質問がある場合には、まずこの説明書をご覧ください—殆どの質問に関する答えを探することができます。これ以上の情報が必要な場合は、以下のオプションをご利用ください。スムーズなサポートの為に、使用中のコンピュータの前でご質問ください。

TSID(テクニカルサポート ID) ナンバ

- テクニカルサポートにご連絡頂く際には、製品に固有のTSID番号が必要になります。TSID番号により、製品やサポート状況について特定することができます。
- TSID 番号は、下記のようなバーコードの白いラベルで、パッケージに同梱されています。



- 製品サポートにご連絡頂く際、TSIDが簡単にわかる様に製品を登録することをお勧めいたします。

メモ: 以下の電話番号は変更される可能性があります。テクニカルサポートの最新の連絡先は、www.adaptec.co.jp のサポートの項をご参照ください。

北アメリカ

- ウェブサイト www.adaptec.com をご参照ください。
- 製品に関する、記事、トラブルシューティングのヒントや、よくある質問(FAQ) は、ask.adaptec.com の Adaptec Support Knowledgebase (ASK) で検索してください。
- メールサポートについては、ask.adaptec.com から質問をお送りください。
- テクニカルサポートスペシャリストとお話になるには、+1 408 934 7274 または +49 89 4366 5544 または +44 845 266 8773 にお電話ください。

ヨーロッパ

- ウェブサイト www.adaptec-europe.com をご参照ください。
- ドイツ語: 電話 +49 89 43 66 55 22. メールサポートについては、ask-de.adaptec.com から質問をお送りください。
- フランス語: 電話 +49 89 43 66 55 33. メールサポートについては、ask-fr.adaptec.com から質問をお送りください。
- 英語: 電話 +49 89 43 66 55 44. メールサポートについては、ask.adaptec.com から質問をお送りください。

日本

- ウェブサイト ask.adaptec.co.jp で、日本語での質問をお受けしております。
- お電話での問い合わせはお受けしておりません。メールサポートについては、ask.adaptec.com から質問をお送りください。

Australia

- 電話: +61-2-9503-1555.

ロシア

- ウェブサイト www.adaptec.com/ru-ru/ をご参照ください。
- 電話: +7 499 918 7200 または +49 89 4366 5555. メールサポートについては、ask-ru.adaptec.com から質問をお送りください。

ソフトウェア使用許諾契約書

次の契約条件を注意してお読みください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様は、PMC-SIERRA、及び本製品にバンドルされているソフトウェアの使用許諾者が定める契約条件に同意したものとします。

お客様は、本製品に付属のソフトウェアを使用することにより、インストール中に同意した、当該ソフトウェアのライセンス許可者が定める契約条件の適用を受けることになります。お客様が、当該ソフトウェアに適用される契約条件に同意しない場合、未使用の製品を返送することで、全代金の返金を受けることができます。

お客様は、PMC-Sierraが提供する本ソフトウェア(以下「ソフトウェア」という) 及び関連書類の使用許諾を得るために、以下の条件に同意するものとします。

1. 使用許諾：本契約書は、下記の使用許諾をお客様に与えるものとします：

- a. 単一コンピュータシステムでの本ソフトウェアの使用、または、
- b. PMC-Sierraの著作権表示と所有財産権に関する記述を複製することを条件として、バックアップを唯一の目的とした「ソフトウェア」の機械読み取り可能な形式でコピーを1つ作成すること。「ソフトウェア」は、主たる使用者の、家庭、ラップトップ、その他2次的なコンピュータで使用される場合がありますが、そのような場合にはその機能を使うためにさらに「ソフトウェア」のコピーを作成することができます。この許諾書で用いられてるように、「ソフトウェア」は、RAMに読み込まれたり、ハードディスクやその他の半永久的な記憶機器にインストールされて使用されます。「ソフトウェア」は、いずれの場合でも一台でしか「使用」できません。(ネットワークまたは複数のユーザアプリケーションには、別のなるライセンス条件と料金が適用されます。)このライセンスの特定の条件として、お客様は、「ソフトウェア」の使用にあたっては、著作権法を含む全ての法を遵守し、コンテンツの所有者から必要な使用許諾や、許可なしに、「ソフトウェア」をコピー、転送、実行または配布しないことに同意します。

2. 規制：「ソフトウェア」のコピーを、他人にまたは電子的に1台のコンピュータから別のネットワークに転送してはいけません。いかなる形式においてもインターネット上に「ソフトウェア」、またはその一部を掲載したり、インターネット上で使用できるようにしてはなりません。タイムシェアリングアプリケーションなど、コンピュータサービス関連のビジネスで、「ソフトウェア」を使用してはならないものとします。「ソフトウェア」は営業秘密を含み、同秘密を保護するために、「ソフトウェア」を逆コンパイル、解析、逆アセンブル、その他人間が認知できるような状態に変更してはなりません。さらに、「ソフトウェア」やその部品から派生した製品を、修正、改造、翻訳、賃貸、リース、ローン、利益のための再販売、分配、ネットワーク、あるいは創造してはならないものとします。

3. 「ソフトウェア」の所有権：お客様は「ソフトウェア」が記録あるいは固定された媒体を所有しますが、オリジナルの媒体に記録された「ソフトウェア」、並びにその後作られた「ソフトウェア」のコピーに対する権利と所有権は、オリジナルやコピーのフォームや媒体に拘らず、PMC-Sierraまたはその使用許諾者が保持します。本許諾契約書は「ソフトウェア」及びそのコピーの販売契約ではありません。

4. 機密保持：お客様は、「ソフトウェア」の機密性を保持し、PMC-Sierraの事前の文書による承認なしに、「ソフトウェア」を第三者に公開しないことに同意します。更に、使用許諾を得ていない第三者の「ソフトウェア」に対するアクセスを阻止するために、あらゆる適切な手段を講じることに同意します。

5. 期間：本許諾は、それ以前に終結、解約されない限り、2045年1月1日まで有効です。お客様は「ソフトウェア」(関連文書を含む) 及び全コピーまたは変更内容を破棄することにより、いつでも本契約書を終結させることができます。PMC-Sierraは、お客様が本契約書の条件や条項を遵守しない場合、直ちに使用許諾を解約する権利を有します。お客様による終結も含めて、本契約書が終結された場合、お客様は「ソフトウェア」(関連文書を含む) 及び全コピーまたは変更内容を破棄しなければなりません。

6. データベースに関する特記事項：「ソフトウェア」にデータベースが含まれる場合、「ソフトウェア」を使用してディスクを作成するときのみ当該データベースの使用を許諾されることに同意します。第4項の規定に従い、データベース及びデータベース内の全データの機密を保持することに同意します。本契約書は、当該データベース及びデータを配布または開示する権利を与えるものではありません。
7. 限定保証：PMC-Sierraおよび使用許可者は、被許可者への配送日から30日間、「ソフトウェア」が備え付けられた媒体が、正常な使用及び作動条件において材質または製作上の欠陥を生じない事に限って保証する。PMC-Sierra および使用許諾者は、「ソフトウェア」やその関連文書を使用した成果や結果を保証しません。上述のみが、PMC-Sierra および使用許可者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることができる救済措置となります。上述の限定保証以外に、PMC-Sierra および使用許諾者は第三者の権利や市場適性、あるいは特定目的への適性などに関して、明示的にも黙示的にも、いかなる保証も行なうものではありません。ある特定の管轄地においては、黙示的保証の存続期間についての限定を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用されない場合があります。本保証書は、本製品をご購入いただいたお客様に特定の法的権利を認めるものです。
8. PMC-Sierra および使用許諾者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることのできる救済措置は次の通りです。
 - a. 上記の限定保証条件に合わず、PMC-Sierra に返送された媒体の交換、あるいは
 - b. PMC-Sierra またはその販売代理店が、材質または製作上の欠陥のない新たな媒体を供給できない場合、お客様は「ソフトウェア」を返送することにより本契約を終了し、代金の返金を受けることができます。
9. 損害責任の制限：PMC-Sierra は、たとえ第三者が PMC-Sierra に損害の可能性や苦情を勧告していたとしても、お客様が被った逸失利益、金銭的損害、あるいは他の特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、結果的損害に対していかなる責任を負うものではありません。ある特定の管轄地においては、上記の限定責任および付随的あるいは結果的損害の排除を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用されない場合があります。
10. 輸出：アメリカ合衆国並びにそれ以外の国家の法律及び規制により、「ソフトウェア」の輸出及び再輸出が規制されていることを、お客様は認識しなければなりません。お客様は、アメリカ合衆国並びにそれ以外の国の法律に違反する方法で、「ソフトウェア」あるいは関連書類を輸出または再輸出しないことに同意します。
11. アメリカ合衆国政府による規制：「ソフトウェア」は、次の規制事項に従います。「ソフトウェア」が GSA 契約の条件に従って取得された場合、その使用、複製、または公開に関して、当該ADPスケジュール契約に定められた規制の適用を受けるものとします。「ソフトウェア」が同国防総省または民間機関が定める契約条件に従って取得された場合、その使用、複製、または公開に際して、連邦調達規則の 48 C.F.R.12.212 及び国防総省 FAR 追加条項 49 C.F.R.227.7202-1 の条項に則って定められた本契約の条件に従うこととします。
12. 総則：お客様は、本契約書を熟読し、理解したこと、更に「ソフトウェア」を使用することにより、本書の条件と条項が被許可者を拘束することに同意することを承諾します。更に、お客様は、本契約書が PMC-Sierra とお客様の間の完全かつ唯一の同意文書であり、本契約書の主題に関してこれまでに PMC-Sierra とお客様の間で交わされた提案や同意書(口頭か文書かを問わず)並びに他の方法による情報交換に取って替わるものであることに同意します。追加または修正された本契約書の条項や他の条件は、PMC-Sierra の役員がその承諾書(本契約書条件の放棄を含む)に署名しない限り、PMC-Sierra に対して執行不能とします。お客様は、法律に準拠し、責任を持って本ソフトウェアを使用する責務をすべて負うものします。本契約書は米国カリフォルニア州の法律が適用されるものとします。ただし、著作権関係については連邦法が適用されるものとします。本契約書は、カリフォルニア州サンバーバール市において、両当事者によって締結されたとみなされます。本契約書のいずれかの条項が、ある裁判管轄地において履行不可とされた場合、同条項は本契約書より分離するとみなされ、本書の他の条項には何の影響も及ばないものとします。本契約書において特に記載されていない「ソフトウェア」に対する権利は全て PMC-Sierra が保有します。

本使用許諾書にご質問があれば、下記にご連絡ください。

PMC-Sierra, Inc. Legal Department 1380 Bordeaux Drive Sunnyvale, CA 94089 (408) 239-8000

1 コマンドラインユーティリティのスタートアップ

この章では、Adaptec® byPMC™ RAIDコントローラが、どのようにARCCONF コマンドラインユーティリティの使用をサポートしているかを説明します。

このユーティリティを使用して、以下のことが可能です。

- 論理ドライブを作成および削除
- 構成の設定の表示及び変更
- コンピュータの設定を別のコンピュータにコピー
- 故障した物理デバイスの復旧と、影響のあった論理ドライブの再構築
- コントローラに新しいBIOSとファームウェアをフラッシュ
- コントローラがディスクドライブの削除と接続をチェックできるようにする
- コントローラのステータス及びイベントログへのアクセスを提供
- 障害を分離しと原因の確定

コマンドライン ユーティリティのインストール

ARCCONFは、Adaptec インストール DVDで提供されるコマンドラインユーティリティです。ARCCONFを Adaptec maxView Storage Manager アプリケーションと一緒にインストールすることができます。または、GUIと一緒にインストールせずに、コマンドラインユーティリティだけをインストールしたい場合、インストールDVDから、ARCCONFの実行ファイルのみをコピーすることも可能です。(maxView Storage Manager についての詳細な情報は、*maxView Storage Manager ユーザーズガイド*を参照してください。)

この項の説明に従い、ARCCONFを maxView Storage Managerと一緒にインストールします。ARCCONF を GUIなしでインストールするには、インストールDVD 上のお使いのオペレーティングシステムのフォルダに進み、ARCCONF 実行ファイルを選択し、お使いのマシンにコピーします。Linuxシステム上では、ARCCONF ファイルに実行権限を与える必要があります。

メモ: FreeBSD システム上では、ARCCONF を使用しストレージ管理タスクを実行する必要があります。FreeBSD は、maxView Storage Manager GUI をサポートしません。詳細については、[FreeBSD へのインストール](#) (13ページ) を参照してください。

Windows へのインストール

ARCCONF をWindows システムにインストールするには、以下の手順に従います。

1. Adaptec インストール DVDを挿入します。
インストールDVDのメイン メニューが開きます。
2. **Install maxView Storage Manager**を選択します。
インストールウィザードが開きます。開かない場合は、**Browse the CD/DVD** を選択し、**Autorun**をクリックします。
3. **Next** をクリックしてインストールを開始し、**I accept...** をクリックし、それから**Next** をクリックします。
4. 以下の構成の設定を入力します。
 - a) CIM サーバポート: 5988。
 - b) Web サーバポート: 8442。
 - c) ユーザ名初期値: Administrator。
 - d) オペレーティングシステムパスワード。
5. パスワードの確認ウィンドウとCIMサーバ及びWebサーバポート確認ウィンドウで**OK**をクリックします。

6. Features ウィンドウで **GUI and Agent** と **CLI Tools** を選択して、**Next** をクリックします。
7. 画面上の指示に従ってインストールを行います。

Red Hat、Cent OS、SUSE、Fedora Linux へのインストール

Red Hat、Cent OS、SUSE、Fedora Linux にARCCONFをインストールするには、以下の手順に従います。

1. Adaptec インストール DVDを挿入します。
インストールDVDは自動的にマウントされます。しない場合、マニュアルでマウントします。
2. Linux managerディレクトリに変更します。
`cd /media/cdrom/maxview/linux/manager`
3. .bin ファイルをインストールします。

オプション	説明
32 ビット	<code>./StorMan-9.00.i386.bin</code>
64 ビット	<code>./StorMan-9.00.x86_64.bin</code>
4. 以下の構成の詳細を入力します。
 ユーザ名を入力します。[初期値: root]
 オペレーティングシステムのパスワードを入力します。
 CIM Server HTTP ポートを入力します。[初期値: 5988]
 インストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。
5. Adaptec インストールDVDをアンマウントします。

Debian または Ubuntu Linuxへのインストール

ARCCONF をDebianまたはUbuntu Linuxにインストールするには、以下の手順に従います。

1. Adaptec インストール DVDを挿入します。
2. Adaptec インストール DVDをマウントします。
`mount /dev/cdrom /mnt/cdrom`
3. Debian manager ディレクトリに変更します。

オプション	説明
32 ビット	<code>cd /mnt/cdrom/maxview/debian_x86/manager</code>
64 ビット	<code>cd /mnt/cdrom/maxview/debian_x86_64/manager</code>
4. .deb パッケージをインストールします。(xxxxx=ビルド番号)

オプション	説明
32 ビット	<code>dpkg -i StorMan_9.00_XXXXX_i386.deb</code>
64 ビット	<code>dpkg -i StorMan_9.00_XXXXX_x86_64.deb</code>
5. 以下の構成の詳細を入力します。
 ユーザ名を入力します: [初期値: root] 。
 オペレーティングシステムのパスワードを入力します。
 CIM Server HTTP ポートを入力します: [初期値 5988]。
 インストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。
6. Adaptec インストール DVDをアンマウントします。
`umount /mnt/cdrom`

Solaris へのインストール

ARCCONF をSolarisに インストールするには、以下の手順に従います。

1. Adaptec インストール DVDを挿入します。
DVDは自動的にマウントされます。もししない場合、以下のようなコマンドを使用してDVDをマニュアルでマウントします。

```
mount -F hsfs -o ro/dev/dsk/c1t0d0s2/mnt
```
2. maxView Storage Manager パッケージをインストールします。

```
pkgadd -d/<mount point>/maxview/solaris_x86/manager/StorMan.pkg
```
3. 続行するかをたずねるプロンプトで、y を選択し、Enterを押します。
4. 以下の構成の詳細を入力します。
ユーザ名を入力します。[初期値: root]
オペレーティングシステムのパスワードを入力します。
CIM Server HTTP ポートを入力します。[初期値: 5988]
インストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。
5. Adaptec インストールDVDをイジェクトまたはアンマウントします。

FreeBSD へのインストール

ARCCONF をFreeBSDにインストールするには、インストールDVDから実行ファイルをコピーします。

1. Adaptec インストール DVDを挿入し、マウントします。

```
mount /cdrom /mnt
```


DVD-ROMドライブは、異なるデバイス名やパス場合があります。
2. maxview/freebsd/cmdline フォルダに進みます(ここでxはお使いのオペレーティングシステムのバージョンを示します。)
メモ: ディストリビューションは、FreeBSD 7、8、9 (32ビット及び64ビット)を含みます。
3. お使いのFreeBSD システムに、arccconf 実行ファイルをコピーします。
4. ファイルが「実行」権限を持っているかを確認します。
5. Adaptec インストール DVDをアンマウントします。

VMware ESX 4.1 へのインストール

以下の手順を使用して、.vib ファイルをVMware ESX 4.1システムにインストールします。インストールは ESX 4.1 コンソール上または Telnet/SSH クライアントが稼動しているリモートシステムから実行できます。

1. Adaptec インストールDVDを挿入し、マウントします。
2. 以下のファイルを、ローカルの ESX 4.1 /tmpディレクトリにコピーします。
 - vmware-esx-provider-arccconf.vib
 - vmware-esx-provider-arcsmis.vib

arccconf.vib は、コマンドラインコミュニケーションです。

arcsmis.vib は、リモートマネージメントコミュニケーションです。

3. 作業を中止します。

```
/etc/init.d/.sfcdb-watchdog stop
```
4. arccconf の既存のインストールをチェックします。

```
esxupdate --vib-view query | grep arccconf
```

5. arcconf の既存のインストールを削除します。
`esxupdate -b < arcconf module name > --maintenancemode remove`
 パッケージが削除されると、「The update completed successfully, but the system needs to be rebooted for the changes to be effective」というメッセージを受け取ります。
6. arcsmis の既存のインストールをチェックします。
`esxupdate --vib-view query | grep arcsmis`
7. arcsmis の既存のインストールを削除します。
`esxupdate -b < arcsmis module name > --maintenancemode remove`
 パッケージが削除されると、「The update completed successfully, but the system needs to be rebooted for the changes to be effective」というメッセージを受け取ります。
8. システムを再起動します。
9. 作業を中止します。
`/etc/init.d/.sfcdb-watchdog stop`
10. arcconf パッケージをインストールします。
`esxupdate -b /tmp/vmware-esx-provider-arcconf.vib --nodeps --nosigcheck --maintenancemode update`
 パッケージがインストールされると、「The update completed successfully, but the system needs to be rebooted for the changes to be effective」というメッセージを受け取ります。
11. arcsmis パッケージをインストールします。
`esxupdate -b /tmp/vmware-esx-provider-arcsmis.vib --nodeps --nosigcheck --maintenancemode update`
 パッケージがインストールされると、「The update completed successfully, but the system needs to be rebooted for the changes to be effective」というメッセージを受け取ります。
12. システムを再起動します。
13. [VMware ゲストOSへのインストール](#) (15ページ) のインストール手順に進みます。

VMware ESXi 5.0 へのインストール

以下の手順を使用して、.vib ファイルを VMware ESXi 5.0 システムにインストールします。Telnet/SSHクライアントが稼動しているリモートシステムからインストールする必要があります。ESXi サーバにリモートにアクセスするにはターミナルエミュレータを使用します。

1. Adaptec インストールDVDを挿入し、マウントします。
2. 以下のファイルを、ローカルの ESXi 5.0 /tmpディレクトリにコピーします。
 - vmware-esx-provider-arcconf.vib
 - vmware-esx-provider-arcsmis.vib

arcconf.vib は、コマンドラインコミュニケーションです。
 arcsmis.vib は、リモートマネージメントコミュニケーションです。
3. 作業を中止します。
`/etc/init.d/.sfcdb-watchdog stop`
4. arcconf の既存のインストールをチェックします。
`esxcli software vib list | grep arcconf`
5. 既存の arcconf パッケージを削除します。
`esxcli software vib remove -n arcconf`
 パッケージが削除されると、「RebootRequired:false」というメッセージを受け取ります。
6. arcsmis の既存のインストールをチェックします。
`esxcli software vib list | grep arcsmis`
7. 既存の arcsmis パッケージを削除します。
`esxcli software vib remove -n arcsmis`

- パッケージが削除されると、「RebootRequired:false」というメッセージを受け取ります。
8. arcconf パッケージをインストールします。

```
esxcli software vib install --maintenancemode --no-sig-check -v /tmp/vmware-esx-provider-arcconf.vib
```

 パッケージがインストールされると、「RebootRequired:false」というメッセージを受け取ります。
 9. arcsmis パッケージをインストールします。

```
esxcli software vib install --maintenancemode --no-sig-check -v /tmp/vmware-esx-provider-arcsmis.vib
```

 パッケージがインストールされると、「RebootRequired:false」というメッセージを受け取ります。
 10. システムを再起動します。
 11. [VMware ゲストOSへのインストール](#) (15ページ) のインストール手順に進みます。

VMware ゲストOSへのインストール

メモ: 開始する前に、[VMware ESX 4.1 へのインストール](#) (13ページ) または [VMware ESXi 5.0 へのインストール](#) (14ページ) のステップを完了している必要が有ります。

ARCCONF をVMware ゲスト OS にインストールするには、以下の手順に従います。

1. Adaptec インストール DVDを挿入します。
2. インストールしたいリモートオペレーティングシステムの、ASM-MANAGER-GOS ディレクトリに行きます。
3. オペレーティングシステムごとの以下のコマンドのどれかを入力します。

オプション	説明
Linux	./StorMan-9.00-19098.esx86_64.bin
Windows	setup_asm_esx_x64.exe

コマンドライン ユーティリティの起動

1. ARCCONF を起動するには、以下のコマンドのいずれかを入力します。

オプション	説明
Windows	<install_dir>\arcconf.exe
Linux	/usr/<install_dir>/arcconf
Solaris	/usr/StorMan/arcconf
FreeBSD	/<install_dir>/arcconf
VMware	/usr/StorMan/arcconf
リモート ARCCONF で VMware ESXi	/usr/RemoteArcconf/arcconf

ここで、install_dir はユーティリティがインストールされているディレクトリ名を示します。

2. 利用可能なコマンドを表示するには、プロンプトでARCCONF と入力します。

2 コマンドラインユーティリティの使用

本章では、コマンドライン ユーティリティを対話形式やバッチモードで使用方法を説明します。対話モードでは、コマンドをプロンプトに入力します。バッチモードではスクリプトを作成し、以下の表で説明するように、適切なシェルでスクリプトを実行します。

表 1 : ARCCONF バッチ環境

環境	バッチファイル	実行スクリプト
Windows	.bat	CMD.EXE
Linux/Unix	.sh	sh / bash

いずれのモードでも、コマンドが失敗した場合は直ちにCommand failed というエラーメッセージが表示されます。他に表示されるスクリプトメッセージは、Command completed successfully または、Command aborted です。

それぞれのコマンドの戻り値は同じです。

0x00: SUCCESS

0x01: FAILURE - The requested command failed

0x02: ABORT - The command was aborted because parameters failed validation

0x03: INVALID_ARGUMENTS - The arguments are incorrect. (Displays COMMAND help)

コマンドラインでコマンドを一覧表示するには、ARCCONF とタイプしEnter を押します。特定のコマンドのオンラインヘルプにアクセスするには、ARCCONF <command>と入力し、Enterを押します。

ARCCONF コマンド

以下のコマンドがARCCONFで利用可能です。コマンドは次のページにアルファベット順に記載されています。

表 2 : ARCCONF コマンド

atapassword	getsmartstats	saveconfig	setpower
copyback	getstatus	savesupportarchive	setpriority
create	getversion	setalarm	setstate
datascrub	identify	setcache	setstatsdatacollection
delete	imageupdate	setconfig	setvmcredential
driverupdate	key	setcontrollermode	task
failover	modify	setcustommode	uninit
getconfig	playconfig	setmaxcache	
getlogs	rescan	setname	
getperform	resetstatisticscounters	setncq	
	romupdate	setperform	

メモ: コマンド構文では、<>は必須パラメータを、[]はオプションのパラメータを示します。

arcconf atapassword

説明

SATAドライブのSecure Erase (完全消去)のパスワードを設定または消去します。Secure Eraseの詳細については、*arcconf task* を参照してください。

構文

```
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> SET <new password> <Channel# ID#> ...
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> CLEAR <current password> <Channel# ID#> ...
```

パラメータ

new password | current password

Channel/IDは、パスワードを設定またはクリア使用とする各ドライブ上のチャネル番号とデバイス番号(ID)の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

Channel/ID

パスワードを設定またはクリア使用とする各ドライブ上のチャネル番号とデバイス番号(ID)の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

例

```
ARCCONF ATAPASSWORD 1 SET uR8ryx 0 1
ARCCONF ATAPASSWORD 1 CLEAR uR8ryx 0 1
```

arccnf copyback

説明

再構築後にドライブをもとのスロット順に保持しようとするコピーバック機能を、有効または無効にします。

構文

```
ARCCONF COPYBACK <Controller#> <ON|OFF>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

On はコピーバック機能を有効にします。

Off はコピーバック機能を無効にします。

例

```
ARCCONF COPYBACK 1 ON
```

arccnf create

説明

新しい論理ドライブ、maxCache コンテナ、JBODを作成したり、オプションで論理ドライブ上のリードキャッシングやライトキャッシングまたはmaxCache SSDキャッシングを有効にします。物理デバイスのチャンネルとデバイス ID を指定する必要があります。

冗長論理ドライブでは、ARCCONFが自動同期を実行します。

ARCCONFは、JBODを論理ドライブではなく物理デバイスとして表示します。

構文

```
ARCCONF CREATE <Controller#> <LOGICALDRIVE|MAXCACHE> [Options] <Size> <RAID#>
<CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ... [noprompt] [nologs]
ARCCONF CREATE <Controller#> LOGICALDRIVE RVOLUME <LD#> <LD#> [LD#] ...
[noprompt] [nologs]
ARCCONF CREATE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ...
[noprompt] [nologs]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

Logical Drive

Logical Drive は、以下のオプションで、論理ドライブのストライプサイズを示します。

- Stripesize <STRIPE>—論理ドライブに構築するストライプサイズを指定します。ストライプサイズを指定するオプションのパラメータです。STRIPE は、キロバイトで指定します。16、32、64、128、256、512、1024 がサポートされています。初期値は 256KB です。
- Legs <LEG>—レグの数を指定するオプションのパラメータです。値は整数です。
- LEG—RAID レベル 50 または 60 のレグ数です。
 - RAID 50—2～16 レグ、3～32 ドライブ/レグ、最大 128 ドライブ
 - RAID 60—2～16 レグ、4～16 ドライブ/レグ、最大 128 ドライブ
- Name <NAME>—ユーティリティに表示される論理デバイスのエリアス名を特定するオプションのパラメータです。値は 16 文字までの文字列です。
- Priority <PRIORITY>—作成される論理ドライブの初期化の優先度。有効なオプションは、HIGH、MED、LOW のいずれかです。
- Method <METHOD>—論理ドライブの初期化の方法。有効なオプションには、BUILD、CLEAR、QUICK、SKIP が含まれます。リカバリのみに SKIP (初期化ステップをスキップ) を使用します。
- Rcache—論理ドライブのリードキャッシュモードを設定します。
 - RON—リードキャッシュがオン
 - ROFF—リードキャッシュがオフ
- Wcache—論理ドライブのライトキャッシュモードを設定します。
 - WT—ライトスルー無効
 - WB—ライトバック有効
 - WBB—(バッテリーやフラッシュバックアップモジュールで保護されている時)ライトバックが有効
- MaxCacheReadCache—論理ドライブに SSD リードキャッシュモードを設定します。
 - ION—maxCache オン
 - IOFF—maxCache オフ
- MaxCacheWriteCache—論理ドライブに SSD ライトキャッシュモードを設定します。
 - ION—maxCache オン
 - IOFF—maxCache オフ
- MaxCacheWritePolicy—maxCache ライトキャッシュポリシーを設定します。
 - maxCache は SSD にデータを保存し、パフォーマンスに影響のない時にハードディスクにライトバックします。これが初期値のポリシーです。
 - INSTWB—インスタントライトバックが有効。初期値のポリシーに加え、SSD に余裕がありダーティページ数が基準値より少ない場合、maxCache がその場でフルストライプのために「ダーティページ」を作成します。
 - WT—ライトスルー有効。その場でライトバックするのと似ていますが、フルストライプライトはキャッシュとハードディスクの両方に行き、ダーティページはその場では作成されません。

この引数は、MaxCacheWriteCache が ION の場合のみ有効です。

メモ: ライトキャッシュポリシーの詳細については、[arccconf setmaxcache](#) (39 ページ) を参照してください。

Size

論理ドライブのサイズをメガバイトで示します。MAXを使用してサイズを利用可能なスペースに設定することもできます。

RAID#

新しい論理ドライブのRAIDレベル、0、1、1E、5、5EE、6、10、50、60 及びボリュームがサポートされます。maxCache では、0、1、1E、5とシンプルボリュームがサポートされます。

Channel# Drive#

論理ドライブやmaxCache コンテナに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。maxCache では、デバイスはSSD である必要があります。

Rvolume

RAIDボリューム論理ドライブのRAIDレベルです。

LD#

RAIDボリュームに接続された2つ以上の論理ドライブの論理ドライブ番号です。

Noprompt

確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF CREATE 1 LOGICALDRIVE STRIPESIZE 64 MAX 0 1 0 2 0 3 2 NOPROMPT
ARCCONF CREATE 1 JBOD 0 1 NOPROMPT
```

arccconf datascrub

説明

コントローラのバックグラウンド一貫性チェックをトグル切り替えをします。

構文

```
ARCCONF DATASCRUB <Controller#> <on|off|period <DAYS>> [noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

On

バックグラウンド一貫性チェックをオンにします。

Period <DAYS>

バックグラウンド一貫性チェックを完了する日数を指定します。最小の値が10日(速い)で、最大が365日(遅い)です。期間を自動的に設定すると、バックグラウンド一貫性チェックは自動的にオンになります。

Noprompt

確認メッセージを削除するオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF DATASCRUB 1 PERIOD 30
ARCCONF DATASCRUB 1 OFF
```

arccnf delete

説明

論理ドライブ、JBOD、maxCache 論理ドライブを削除します。論理ドライブまたはJBOD上の全データが失われます。スパンドライブは、この機能では削除されません。

構文

```
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <LD#> <LD#> [noprompt]
ARCCONF DELETE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ...
[noprompt]
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE|JBOD ALL [noprompt]
ARCCONF DELETE <Controller#> MAXCACHE
```

パラメータ

Controller#

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive#

LogicalDrive# は、削除される論理ドライブの番号です。

LogicalDrive|JBOD ALL

論理ドライブまたはJBODを全て削除します。

MAXCACHE

maxCache コンテナを削除します。

Noprompt

警告メッセージを削除するオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF DELETE 1 LOGICALDRIVE 1 2 3
ARCCONF DELETE 1 JBOD ALL
```

arcconf driverupdate

説明

Windowsのデバイスドライバをアップデートします。ディレクトリ名を入力すると、ドライバを与えられたディレクトリ内で見つかったバージョンにアップデートしようとします。

メモ: このコマンドは、Windowsシステム内でのみ利用可能です。

構文

```
ARCCONF DRIVERUPDATE <DirName>
```

パラメータ

Driverupdate <DirName>

アップデートするドライバが含まれるディレクトリのパスです。

例

```
ARCCONF DRIVERUPDATE C:\WINDOWSALL
```

arcconf failover

説明

自動フェイルオーバーをオンまたはオフに変更します。

構文

```
ARCCONF FAILOVER <Controller#> <on|off>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

On

コントローラのフェールオーバーモードをオンにします。

Off

コントローラのフェールオーバーモードをオフにします。

例

```
ARCCONF FAILOVER 1 ON
```

arcconf getconfig

説明

コントローラ、論理ドライブ、物理ドライブ、ブラッシュバックアップシステムに関する情報が一覧表示されます。情報には以下の項目を含めることができます(他の項目も可能です)。

- コントローラタイプ
- BIOS、ブートブロック、デバイスドライバ、ファームウェアバージョン
- 論理ドライブのステータス、RAIDレベル、サイズ
- maxCache ステータス、fetch and flush レートポリシー、リード/ライトバランス、SSD の情報
- デバイスタイプ、デバイス ID、PFA の有無
- 物理デバイスの状態
- エンクロージャ情報: ファン、電源、温度ステータス
- コントローラ「グリーンバックアップ」情報 (AFM-700 フラッシュバックアップモジュール): ステータス、電力、温度、ボルト、電流、エラー

構文

```
ARCCONF GETCONFIG <Controller#> [AD|LD [LD#]]|PD|MC|AL]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

AD/LD/PD/AL

- AD—アダプタ情報のみ
- LD—論理ドライブ情報のみ
- PD—物理デバイス情報のみ
- MC—maxCache の情報のみ
- AL—全情報(オプション)

例

ARCCONF GETCONFIG 1 AD

arcconf getlogs

説明

下記を含む、コントローラのステータス、イベントログ、使用統計へのアクセスを提供します。

- DEVICE—コントローラで発生したデバイスエラーのログ
- DEAD—機能停止したデバイスが発生した記録のログ
- EVENT—発生した特定のイベントのログ(rebuildやLDM等)
- STATS—コントローラの使用統計のログ

構文

ARCCONF GETLOGS <Controller#> <Type> [clear|tabular]

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。Clearは特定のログをクリアします。

Type

以下のいずれかのシステムであること。

- DEVICE
- DEAD
- EVENT
- STATS

Clear

指定したログを消去します。

メモ: このオプションは、DEVICE、DEAD、EVENTログタイプでのみ有効です。

Tabular

ログまたは統計を表形式で表示します。

例

```
ARCCONF GETLOGS 1 DEVICE
ARCCONF GETLOGS 1 STATS Tabular
```

arccnf getperform

説明

論理ドライブパフォーマンスモードを定義するパラメータを取得します。初期値は、現在のモードです。

構文

```
ARCCONF GETPERFORM <Controller#> [Performance Mode] [Save [Filename]] [Nologs]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Performance Mode

以下のいずれかのシステムであること。

- 1 - Default/Dynamic mode
- 2 - OLTP/Database
- 3 - Big Block Bypass mode
- 4 - User defined mode

Save

パフォーマンスモードパラメータをファイルに保存します。

Filename

パラメータを保存するファイルの名前。特に指定しなければ、初期値のファイル名は、PerformanceMode.cfg.です。

Nologs

Suppresses creation of logs for this command.

例

```
ARCCONF GETPERFORM 1 2
```

arcconf getsmartstats

説明

コントローラ上のハードドライブやSSD (ソリッドステートドライブ)のSMART統計を表示します。

メモ: SMART統計についての詳細は、maxView Storage Manager ユーザーズガイドを参照してください。

構文

ARCCONF GETSMARTSTATS <Controller#> [Tabular]

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Tabular

出力を表形式で生成します。

例

```
ARCCONF GETSMARTSTATS 1
ARCCONF GETSMARTSTATS 1 TABULAR
```

arcconf getstatus

説明

GETSTATUS機能を使用すると、現在実行中のバックグラウンドコマンドの情報が表示されます。最新の再構築、同期、論理ドライブのマイグレーション、圧縮/展開に関する情報が含まれます。この情報には、操作のタイプ、ステータス、論理ドライブ番号、論理ドライブサイズ、処理の進捗率などが含まれます。

メモ:

1. GETSTATUSでは、ARCCONF コマンドと maxView Storage Manager からのコマンド両方の現在アクティブな操作についてレポートされます。
2. GETSTATUS は、物理デバイス上のベリファイ、クリア、初期化、完全消去の作業についてレポートします。
3. GETSTATUSは、アクティブな作業のみをレポートします。作業が完了すると情報を表示しません。

構文

ARCCONF GETSTATUS <Controller#>

パラメータ

Controller#

Controller# はコントローラ番号です。

例

ARCCONF GETSTATUS 1

arcconf getversion

説明

BIOS、ドライバ、現在稼働中のファームウェア、再起動後のファームウェアの情報を含む、コントローラまたは、コントローラのソフトウェアコンポーネントのバージョン情報を一覧表示します。

メモ: 再起動後に実行するファームウェアのバージョンは、「ステージ」ファームウェアと呼ばれます。

構文

ARCCONF GETVERSION (use this for information on all controllers)
ARCCONF GETVERSION <Controller#> (use this for information on a specific controller)

パラメータ

Controller#

Controller# はコントローラ番号です。

例

ARCCONF GETVERSION

arcconf identify

説明

LEDを点滅させて、物理または論理デバイスを識別します。

構文

ARCCONF IDENTIFY <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>
ARCCONF IDENTIFY <Controller#> DEVICE <Channel#> <ID>

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Channel/ID

識別する論理ドライブの番号。

Channel#

識別するデバイスのチャンネル番号。

Device#

識別するデバイスのデバイス番号。

例

```
ARCCONF IDENTIFY 1 DEVICE 0 0
ARCCONF IDENTIFY 1 ALL
```

arcconf imageupdate

説明

新しいファームウェアをハードドライブやエンクロージャにフラッシュすることを可能にします。

構文:Physical Device Usage

```
ARCCONF IMAGEUPDATE <Controller#> DEVICE <Channel# ID# ChunkSize# Filename>
[Mode#] [noprompt]
ARCCONF IMAGEUPDATE <Controller#> DEVICE <Channel# ID#> [ChunkSize#] <EXPANDER>
<Filename> [Mode#] [noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Channel#

識別するデバイスのチャンネル番号。

ID#

識別するデバイスのデバイス番号。

ChunkSize#

ファームウェアをアップデートするのに使用するチャンクサイズで、バイトで表記します。エンクロージャでは、初期値は 65536 バイトです。

メモ: SATAドライブでは、チャンクサイズは、512の倍数である必要があります。

Filename

ファームウェアアップデートファイル名

Mode#

ファームウェアアップデートモード

物理ドライブに有効な値は:

- 3-(SATA) 差分付きのダウンロードで、イメージを今及び将来の使用のために保存
- 7-(SAS) 差分付きマイクロコードのダウンロード、保存、有効化

エンクロージャに有効な値は、

- DEFER- マイクロコードのみをダウンロード、システムのリセットまたは電源サイクルをアクティブにする必要が有ります。

Noprompt

警告メッセージを削除するオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF IMAGEUPDATE 1 DEVICE 0 83 16384 ados.lod 3
```

arccnf key

説明

アダプテックコントローラ上に機能キーをロードします。

構文

```
ARCCONF KEY <Controller#> SET <Key#>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Key#

PMCによって提供されたキー番号。

例

```
ARCCONF KEY 1 SET ABCD EFGH IJKL MNOP QRST UVWX
```

arccnf modify

説明

論理デバイスがあるRAIDレベルから別のレベルに変化します(RAIDレベルマイグレーション)。論理デバイスが元の容量から大きな容量に拡張します。(オンライン容量拡張) ミラーのセットを作るのにも使用できます。

構文

```
MODIFY <Controller#> FROM <LogicalDrive#>
TO [Options] <Size> <RAID#> <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] [noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

From

変更される論理ドライブが後に続くことを示します。

LogicalDrive#

論理ドライブ番号

TO

変更の内容が後に続くことを示します。

オプション:

- ストライプサイズ – ストライプサイズをKBで表示します。オプションは、32、64、128、256、512、1024で、初期値は256KBです。
- init_priority – 変更のプライオリティレベルです。オプションは、low、med、highです。
- Legs – RAID レベル 50 または RAID レベル 60 のアレイのサブアレイの数です。可能な値は、2-16 legs、3-16 drives/leg (最大で 48 ドライブ) です。

size には以下のいずれかの値を指定します。

- MAX は利用可能なディスク上のすべての空き容量を使用します。
- 任意のサイズ(MB)。

RAID# は、論理ドライブのRAID レベル(0、1、5、5EE、10)です。

メモ: CHANNEL#とID#パラメータは、ターゲットの変更先を含むデバイスのリストです。ChannelとDevice_IDは、繰り返し可能なパラメータです。

Channel# はデバイスのチャンネル番号です。

Drive## はデバイスのdevice_ID(デバイス番号)です。

NOPROMPT はユーザ プロンプトを無効にするオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF MODIFY 1 FROM 2 TO 2048 0 0 123 0 124 0 117
```

arccconf playconfig

説明

SAVEOCONFIGコマンド([arccconf playconfig](#) (31ページ) 参照)で作成した、XMLサーバーテンプレートファイルを使用して、コントローラを設定します。このコマンドを使用して、同じコントローラ設定をストレージスペース内の複数のサーバに適用します。

メモ:

1. XMLサーバテンプレートファイル(初期値で、saveconfig.xml)は編集可能です。例えば、ディスクドライブの容量、論理ドライブのサイズ、RAIDレベルを変更する必要があるかもしれません。
2. 同じ製造元のドライブで、わずかに容量の異なる (例えば147GBか150GBなど)ドライブは、相互交換可能です。交換により論理ドライブ容量が変化した場合、ドライブは必要によって比例します。例えば、新しいドライブが4%大きな容量をもっている場合、全ての論理ドライブで4%サイズが増加します。
3. ログファイルをチェックして、コントローラが正しく設定されたか確認します。終了のコードは、以下に示す様に、操作が成功したか失敗したか、システムの再起動が必要かを表示します。

コード	値	意味
SUCCESS	0	設定は成功し、リブートは不要です。
FAILURE_GENERAL	1	エラーが発生し、設定は完了できませんでした。
SUCCESS_REBOOT	2	設定は成功しましたが、リブートが必要です。

構文

ARCCONF PLAYCONFIG <Input XML File> [LogFile] [FORCE ALL|LOGICALSIZE]

パラメータ

Input XML File

サーバテンプレートファイルのパス名です。初期値のサーバテンプレートファイルは、C:\PMCS\Logs\saveconfig.xml にあります。

LogFile

エラーログファイルのパス名を設定します。初期値のエラーログは、C:\PMCS\Logs\playconfig.log にあります。

FORCE

コントローラがすべての機能に対応していなかったり、ドライブの容量が input XML file 中の設定と一致しなくとも、強制的に適用します。FORCE ALL使用すると全ての機能に強制適用を行い、FORCE LOGICALSIZEは、論理ドライブのサイズのみを強制適用します。

例

```
ARCCONF PLAYCONFIG server1_config.xml playconfig.log FORCE ALL
```

arccnf rescan

説明

コントローラで、Ready 状態のディスクドライブの取り出しと新しいディスクドライブのコントローラへの接続をチェックします。再スキャンを完了すると、コマンドが返ります。

構文

```
ARCCONF RESCAN <Controller#>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

例

```
ARCCONF RESCAN 1
```

arccnf resetstatisticscounters

説明

コントローラの統計カウンターをリセットします。このコマンドを使用して、カウンタをクリアし、新しい統計を作成します。

構文

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS <Controller#>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

例

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS 1
```

arccnf romupdate

説明

新しいファームウェアとBIOSをコントローラにフラッシュすることができます。新しいファームウェアを有効にするには、再起動が必要となります。

メモ:

1. この機能は、WindowsとLinuxでのみサポートされます。
2. BIOS/Firmwareアップデートディスクレットではなく、DVDから *.UFIのアップデートファイルをコピーしたかを確認してください。

構文

```
ARCCONF ROMUPDATE <Controller#> <BaseName> [Newversion <build#> [Force]]
[noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

BaseName

ROMイメージのベースネームか、コントローラROMイメージ式を持っている場合フルパス名です。

メモ: すべてのUFIファイルは、ARCCONFを実行する前に同じディレクトリにある必要があります。フロッピーイメージからUFIファイルをコピーする場合、すべてのイメージをチェックしてください。

Newversion <build#>

作成するファームウェアのバージョンを定義します。

Force

オプションのパラメータで、下位レベルのファームウェアアップデートを強制する時に使用します。

Noprompt

確認メッセージを削除するオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC2200
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC220001.UFI
ARCCONF ROMUPDATE 1 AS483C newversion 12345 force noprompt
```

arccnf saveconfig

説明

コントローラタイプ、運用設定、物理ドライブサイズ、論理ドライブサイズ、RAIDレベル他の、コントローラの設定をXML サーバテンプレートファイルに保存します。PLAYCONFIG コマンドを使用し、同じコントローラ設定をストレージスペース内の別のサーバに適用します。詳細は、[arccnf playconfig](#) (31ページ) を参照してください。

メモ: ログファイルをチェックして、コントローラXMLファイルが正しく作成されたか確認します。終了コードは、以下の様に操作が成功したか失敗したかを示します。

コード	値	意味
SUCCESS	0	設定XMLは問題なく作成されました。
FAILURE_GENERAL	1	エラーが発生し、設定XMLは作成できませんでした。

構文

ARCCONF SAVECONFIG [Input XML File] [LogFile]

パラメータ

Input XML File

サーバテンプレートファイルのパス名です。初期値のファイル名は(このパラメータを省略した場合)、C:\PMCS\Logs\saveconfig.xml になります。

LogFile

エラーログファイルのパス名です。初期値のエラーログは、C:\PMCS\Logs\saveconfig.log にあります。

例

ARCCONF SAVECONFIG server1_config.xml C:\LOGS\SERVER1.LOG

arccnf savesupportarchive

説明

Adaptec カスタマサポートがシステムの問題を診断するのに役立つ構成とステータス情報を保存します。保存される情報に含まれるのは(限定されませんが)、デバイスログ、ドライブログ、イベントログ、エラーログ、コントローラログ、SSD SMART統計情報です。(SMARTの詳細については、[arccnf getsmartstats](#) (27ページ) を参照してください。)

ログファイルは、オペレーティングシステムの標準ログディレクトリ(Linuxでは、/var/log、WindowsではmaxView Storage Managerのインストールディレクトリ等)内のSupportフォルダに保存されます。

メモ: maxView Storage ManagerのSave Support Archive機能とは異なり、このコマンドは、Zip(「Archive」)ファイルを作成しません。単に、Supportフォルダ内にサポートファイルとログを保存するだけです。

構文

ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE

パラメータ

なし

例

ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE

arcconf setalarm

説明

コントローラに音声アラームがある場合に、そのコントローラの音声アラームの状態を設定します。

構文

ARCCONF SETALARM <Controller#> <on|off|silence|test>

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

On

アラームを有効にします。

Off

アラームを無効にします。

Silence

現在になっている音声アラームを停止します。

Test

アラームを鳴らします。

例

ARCCONF SETALARM 1 TEST

ARCCONF SETALARM 1 SILENCE

arcconf setcache

説明

論理ドライブのキャッシュモードを変更します。

構文

```
ARCCONF SETCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <logical mode>
[noprompt] [nologs]
ARCCONF SETCACHE <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <physical mode> [nologs]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

LogicalDrive#

キャッシュを変更する論理ドライブの番号です。

Logical mode

論理ドライブのキャッシュモードは:

- RON—リードキャッシュがオン
- ROFF—リードキャッシュがオフ
- WT—ライトスルー無効
- WB—ライトバック有効
- WBB—バッテリやフラッシュバックアップモジュールで保護されている時)ライトバックが有効

Channel/ID

論理ドライブに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

Physical device cache modes

- WT—ライトスルー無効
- WB—ライトバック有効

例

```
ARCCONF SETCACHE LOGICALDRIVE 1 RON
ARCCONF SETCACHE DEVICE 0 0 WB
```

arcconf setconfig

説明

コントローラの設定をリセットします。論理ドライブが削除され、ハードディスクはレディ状態にリセットされ、コントローラの全ての設定がデフォルトになります。

構文

```
ARCCONF SETCONFIG <Controller#> DEFAULT [noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Default

コントローラの初期設定に復元します。

Noprompt

確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF SETCONFIG 1 DEFAULT
```

arcconf setcontrollermode

説明

コントローラの動作モードを次のいずれかに設定します。

- RAID Mode (初期値)—コントローラの全てのRAID機能が有効になります。
- Auto Value Mode—コントローラの全てのRAID機能が有効になります。Adaptec メタデータなしだがOSパーティション付でドライブをアタッチし、ホストオペレーティングシステムをパススルーデバイスとしてホストオペレーティングシステムに表示され、一方ホストがデバイスにコマンドを発行する際にはコントローラファームウェアのRAIDレイヤーバイパスされます。Adaptec メタデータ無しでかつ OS パーティション無しで接続されたデバイスは、以下の設定で自動的にシンプルボリューム(Adaptec メタデータ付単一ドライブ)として構成されます。
 - コントローラリードキャッシングは、回転メディアでは「Enabled」に設定されます。
 - コントローラライトキャッシングは、回転メディアでは「Enabled (write-back) when protected by battery/ZMM」に設定されます。

- maxCache SSD リード & ライトキャッシングは有効で、回転メディアでのライトキャッシングポリシーは「write back」に設定されます。
- 非回転メディアのキャッシングは無効にされます。
- HBA Mode—全ての接続されたデバイスは「パススルー」デバイスとして表示されます。コントローラにAdaptecメタデータ付のドライブがない場合にのみHBAモードに変更可能です。HBAモードに変更する前にドライブを未初期化します。(arccnf uninit (50ページ) 参照)

メモ: HBAモードでは、ホットプラグされた新しいドライブは、自動的にRAWデバイスとして設定されます。(arccnf uninit (50ページ) 参照)Raw デバイスがシステムから抜かれると、コントローラはそのドライブの内部データ構造を削除できません。しかし不明なraw デバイスは最スキャンで見つけることができません。

コントローラモードを変更してからコントローラを再起動する必要があります。

構文:

ARCCONF SETCONTROLLERMODE <Controller#> <Controller Mode> [nologs]

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

Controller Mode

以下のいずれか値:

- 0 - Default/Dynamic mode
- 1 - Auto Volume Mode
- 2 - HBA Mode

nologs

コマンドのログアウトブットを省略。

例

```
ARCCONF SETCONTROLLERMODE 1 2
ARCCONF SETCONTROLLERMODE 1 0
```

arccnf setmaxcache

説明

1つ以上の論理ドライブで、maxCache SSDキャッシングを有効または無効にし、maxCache ライトキャッシュポリシーと「ダーティページ」基準値 (ディスクにコミットしないデータ)をアップデートし、SSD をmaxCache プールに追加し、プールからSSDを削除し、maxCache リード/ライトバランスやフェッチ/フラッシュレートを設定し、maxCache プールをクリアします。

メモ: maxCache SSD を有効にする前に、少なくともSSDを1台、maxCacheプールに割り当てる必要があります。

構文:Read Caching

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> READCACHE
<ENABLE|DISABLE>
```

構文:Write Caching

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> WRITECACHE
<ENABLE|DISABLE> [WRITEPOLICY <policy>]
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE ALL WRITECACHE DISABLE
[WRITEPOLICY <policy>]
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> WRITEPOLICY
<policy>
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> DIRTYPAGETHRESHOLD <dirtyPageThreshold#>
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> WBCVALID <ENABLE|DISABLE>
```

一般的な用法

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> <ADDTOPPOOL|REMOVEFROMPOOL> <Channel# Device#>
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> RWBALANCE <Read#> <Write#>
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> FLUSHANDFETCHRATE <FlushAndFetchRate#>
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> CLEAR
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

LogicalDrive#

論理ドライブの番号。1つ以上の論理ドライブを設定可能です。

Channel#

SSDのチャネル番号。

Device#

SSDのデバイス番号。

Read#/Write#

SSD上でデータを無効にするリード/ライトのレートです。レートに達すると、ページがキャッシュから削除されます。値の範囲は、各パラメータ毎に1~10です。

FlushAndFetchRate#

から1000のリードキャッシュフェッチレートです: 1-50=Low, 51-100=Medium, 101-1000=High。初期値は 100です。

メモ: レートが低いほど長いページがキャッシュがフラッシュされる前にSSDに保存されます。

dirtyPageThreshold#

「ダーティ」データ、つまりディスクにコミットされないデータに割り当てられたキャッシュスペースの量を管理します。基準値の値は 1-100 (パーセント) です。ダーティページのパーセンテージが基準値を超すと、データはディスクに転送されます。

WBCVALID ENABLE | DISABLE

非冗長maxCache でライトキャッシングを有効または向こうにします。全ての論理ドライブに適用されます。

Policy

以下のmaxCache ライトキャッシュポリシー

- maxCache はSSDにデータを保存し、パフォーマンスに影響のない時にハードディスクにライトバックします。これが初期値のポリシーです。
- INSTWB – インスタントライトバックが有効。初期値のポリシーに加え、SSDに余裕がありダーティページ数が基準値より少ない場合、maxCacheがその場でフルストライプのために「ダーティページ」を作成します。
- WT-ライトスルー有効。その場でライトバックするのと似ていますが、フルストライプライトはキャッシュとハードディスクの両方に行き、ダーティページはその場では作成されません。

Clear

maxCache プールをクリアします。

例

```
ARCCONF SETMAXCACHE 1 LOGICALDRIVE 1 READCACHE ENABLE
ARCCONF SETMAXCACHE 1 LOGICALDRIVE 1 WRITECACHE ENABLE WRITEPOLICY WT
ARCCONF SETMAXCACHE 1 DIRTYPAGETHRESHOLD 50
ARCCONF SETMAXCACHE 1 ADDTOPPOOL 0 1
ARCCONF SETMAXCACHE 1 REMOVEFROMPOOL 0 1 0 2
ARCCONF SETMAXCACHE 1 RWBALANCE 4 1
ARCCONF SETMAXCACHE 1 FLUSHANDFETCHRATE 200
ARCCONF SETMAXCACHE 1 CLEAR
```

arcconf setname

説明

論理ドライブの名前を変更します。

構文

```
ARCCONF SETNAME <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <New Name>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

LogicalDrive#

名称変更する論理ドライブの番号。

New Name

新しい論理ドライブの名前。

例

```
ARCCONF SETNAME 1 LOGICALDRIVE 1 BACKUP_A
```

arcconf setncq

説明

コントローラのNCQネイティブコマンドキューイングを有効または無効に変更します。この設定は、コントローラ上のSATAディスクドライブに影響します。SATAドライブが再起動したときに有効になります。

構文

```
ARCCONF SETNCQ <Controller#> ENABLE|DISABLE
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

例

```
ARCCONF SETNCQ 1 ENABLE
```

arcconf setperform

説明

アプリケーションのタイプによってコントローラの設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPERFORM <Controller#> <Performance Mode> [nologs]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Performance Mode

設定	動作
1 (DYNAMIC/Default)	自動的にコントローラの使用頻度、RAIDレベル、ディスクドライブタイプに基づいて調整するパフォーマンス基準。
2 (OLTP/Database)	データエントリや復旧などのトランザクション指向アプリケーション用に最適化されるパフォーマンス基準。
3 (Big Block Bypass)	DRAMライトキャッシュがIO ライトサイズによってバイパスされ、パフォーマンスがウェブページやデータ取り出し用に最適化されるパフォーマンス基準。
4 (User-Defined)	ユーザが定義したパフォーマンスモード。詳細についてはアダプテックのサポートに小土肥泡さください。

例

```
ARCCONF SETPERFORM 1 2
```

```
ARCCONF SETPERFORM 1 3
```

arccnf setpower

説明

コントローラや論理ドライブ上のディスクドライブのパワーマネージメント設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Stayawake DISABLE| <starttime> <endtime>
```

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Spinup <internal#> <external#>
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Stayawake

コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を設定します。ステイアウェイク期間内は、ディスクドライブは常に最高のスピンレートで動作します。

Disable

コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を無効にするキーワードです。

starttime

ステイアウェイク期間の開始を、HHMM (24時間形式)で指定します。

endtime

ステイアウェイク期間の終了を、HHMM (24時間形式)で指定します。

Spinup

コントローラのスピナップの制限—コントローラが同時にスピナップする最大の数を設定します。

internal#

コントローラが一度にスピナップする内部ドライブの最大数で、0-20です。

external#

コントローラが一度にスピナップする外部ドライブ(例えばJBOD内のドライブ) の最大数で、0-20です。

LogicalDrive#

論理ドライブ番号。

Slowdown st#

ディスクドライブのスローダウタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Poweroff pt#

ディスクドライブのパワーオフタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Verify vt#

非アクティブ期間を時間で設定し、その後非アクティブドライブ(既にパワーダウンしたドライブ)が動作したかを確認するために再起動します。チェックが完了すると、ドライブの電源が落ち、非アクティブ状態に戻ります。有効な値は、0 (しない)、1, 2, 3, 8, 12, 24です。

メモ: スローダウン、パワーオフ、ベリファイタイマーでは、st#はpt#より少なく、pt#はvt#より少ない必要があります。1つまたは複数のタイマーを、好きな順番で、一つのコマンドで設定することができます。ベリファイタイマー、vt#は、時間で指定しているのに対し、他の二つのタイマーは分で指定していることに注意してください。

例

```
ARCCONF SETPOWER 1 STAYAWAKE DISABLE
ARCCONF SETPOWER 1 SPINUP 4 4
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 POWEROFF 60
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 SLOWDOWN 20 POWEROFF 60 VERIFY 12
```

arcconf setpriority

説明

タスクの実行プライオリティまたは、コントローラのグローバルバックグラウンドタスクの優先度を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPRIORITY <Controller#> [TASK ID] <New Priority> [current]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Task ID

Task IDは、変更するタスクの番号です。タスク IDを入手するには arccnf getstatus を使用します。コントローラのグローバルバックグラウンドタスクプライオリティ、つまりコントローラ上のすべてのタスクの実行プライオリティを設定するときはこのパラメータを省略します。

New Priority

LOW、MEDIUM、HIGH

Current (keyword)

グローバルタスクプライオリティを実行しているタスクに適用します。初期値では、グローバルプライオリティ変更は、実行中のタスクには適用されません。

例

```
ARCCONF SETPRIORITY 1 <task_id> HIGH
ARCCONF SETPRIORITY 1 LOW CURRENT
```

arcconf setstate

説明

物理デバイスや論理デバイスの状態を、現在の状態から目的の状態に変更します。

構文

```
ARCCONF SETSTATE <Controller#> DEVICE <Channel#> <Device#> <State> [MAXCACHE]
[LOGICALDRIVE <LD#>[LD#] ... ] [noprompt]
ARCCONF SETSTATE <Controller#> LOGICALDRIVE <LD#> OPTIMAL [ADVANCED <option>]
[noprompt]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Channel#

ドライブのチャンネル番号。

Device#

デバイスのデバイス番号。

LD#

論理ドライブ番号。

State

- HSP—レディドライブからホットスペアを作成します
- RDY—ホットスペアの指定を削除します。
- DDD—ドライブを強制オフライン(故障)に

MAXCACHE

maxCach デバイスのみのオプションキーワードです。State が HSP か RDY の場合とホットスペアがmaxCache デバイスの場合を含みます。

ADVANCED <option>

オプションと組みあわせるオプションキーワード。オプションを Nocehck に設定して、整合性チェックを実行せずに、論理ドライブを Optimal (正常)の状態にします。

Noprompt:

確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 HSP LOGICALDRIVE 1 2 3
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 RDY LOGICALDRIVE 2
ARCCONF SETSTATE 1 LOGICALDRIVE 1 OPTIMAL ADVANCED nocheck
```

arccnf setstatsdatacollection

説明

コントローラの統計情報収集を有効または無効にします。統計を表示するには、[arccnf getlogs](#) (25ページ) を参照してください。

構文

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION <Controller#> Enable|Disable
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

Enable

統計情報収集をオンに変更します。

無効

統計情報収集をオフに変更します。

例

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION 1 ENABLE
```

arccnf setvmcredential

説明

VMware ゲストOS のハイパーバイザログイン認証をリセットします。

構文

```
SETVMCREDENTIAL <Esxip> <Esxcimomport> <Esxuserid> <Esxpassword> [noprompt]
```

パラメータ

Esxip

ハイパーバイザ IP アドレス

Esxcimomport

ハイパーバイザ CiMOM ポート番号

Esxuserid

ハイパバイザユーザ名

Esxpassword

ハイパバイザパスワード

例

```
ARCCONF SETVMCREDENTIAL 172.18.46.101 5989 root passwd
```

arccnf task

説明

論理ドライブ、物理ドライブ、maxCache 論理デバイスでタスクを実行します。

構文:一般的な用法

```
ARCCONF TASK
TASK START <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>
TASK START <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> DEVICE <Channel> <ID>
```

構文:maxcache で使用

```
ARCCONF TASK
TASK START <Controller#> MAXCACHE COHERENCYCHECK [ONCE|ALWAYS]
TASK START <Controller#> MAXCACHE <VERIFY_FIX|VERIFY>
TASK STOP <Controller#> MAXCACHE
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号

LogicalDrive#

タスクを実行する論理ドライブの番号です。

- 論理ドライブのオプション:
 - `verify_fix` (Verify with Fix) — 論理ドライブの冗長性をチェックし、バッドデータが見つかったときには修復します。
 - `verify` — バッドデータの修正せずに、論理ドライブの冗長性をチェックします。
 - `clear` — ドライブ上のすべてのデータを削除します。
- 物理デバイスのオプション:
 - `verify_fix` — ディスクメディアをチェックし、バッドデータが見つかったときは修復します。
 - `verify` — バッドデータの修復をせずにディスクメディアをチェックします。
 - `clear` — ドライブ上のすべてのデータを削除します。
 - `initialize` — ドライブをREADY状態に戻します。(メタデータを削除します)
 - `secureerase [password]` — 削除されたデータのあらゆる復旧を不可能にする安全な方法でドライブからすべてのデータを削除します。パスワードの設定に関するの詳細については、[arcconf atpassword](#) (17ページ) を参照してください。

MAXCACHE options:

- `coherencucheck` — maxCache コンテナの有効なページを該当する論理ドライブストレージと比較します。初期値は Once です。
- `verify_fix` (Verify with Fix) — maxCache コンテナの冗長性をチェックし、バッドデータが見つかったときに論理ドライブを修復します。
- `verify` — バッドデータを修復せずに maxCache コンテナをベリファイします。

例

```
ARCCONF TASK START 1 LOGICALDRIVE 1 VERIFY
ARCCONF TASK START 1 DEVICE 0 0 INITIALIZE
ARCCONF TASK START MAXCACHE COHERENCYCHECK ONCE
```

arcconf uninit

説明

HBAモードで使用できるように1台以上の物理ドライブを未初期化します。未初期化コマンドは Adaptec メタデータとドライブのOSパーティションをクリアします。ドライブは Raw または Ready 状態 (つまりどの論理ドライブの1部でもない) 場合にのみ、アンイニシャライズ可能です。Raw 状態のドライブには、Adaptec のメタデータはありませんが、OS パーティションはあったりなかったりする可能性が有ります。

メモ: HBAモードの詳細については、[arcconf setcontrollermode](#) (38ページ) を参照してください。

構文:

```
ARCCONF UNINIT <Controller#> <CHANNEL# DRIVE#> [Channel# Drive#] ... [nologs]
ARCCONF UNINIT <Controller#> ALL [nologs]
```

パラメータ

Controller#

コントローラの番号。

Channel#

アンイニシャライズするデバイスのチャンネル番号

Drive#

アンイニシャライズするデバイスのドライブ番号

ALL

Raw または Ready 状態の全ての物理デバイスを未初期化します。

nologs

コマンドのログアウトプットを省略。

例

```
ARCCONF UNINIT 1 0 12 0 13
ARCCONF 1 ALL
```



PMC-Sierra, Inc.
1380 Bordeaux Drive
Sunnyvale, CA 94089 USA

© Copyright PMC-Sierra, Inc. 2012
All rights reserved. Adaptec and the Adaptec by PMC logo
are trademarks of PMC-Sierra, Inc.

Part Number: CDP-00276-01JA-A Rev A